

十月十日 休日

十六時四〇分発ANAで福岡へ。雨雲がたれ込めている空を飛ぶ。秋雨前線だな。それでも西の空は輝いている。中国大陸は晴れているのだろうか。今夜はカンサイの社長と会食の予定。幾つかの計画について話してみたい。昨日久し振りにホームページ用のコラムを書いたが、又もや死んだ佐藤健が出てきてしまい、流石にあわてた。死んだ人間の事を懐かしむようでは危い。しかしながら、死んで居なくなった人間の形は実にハッキリとなるものだ。

十九時前福岡空港着。Oさんに迎えていただく。暗闇の中、現場を見る。予想通り、というか、計算通りの出来上がりであった。それ位の事が無ければ年を取った甲斐もない。かくの如き、複雑な有機的形態及びスケールを把握できるようになっている自分に、少しホッとす。ハンス・シャロンの建築に外見は近いのであるが、それとは確然として違うところがあるのは意識している。O夫人と夕食、おいしかった。色々困った事は山積されているのだが、Oさんの現場がよい仕上がりになっているのを確認できて、いきなり元気が出てしまう。バカだなア、我ながら。しかし、その為に生きているんだから仕方ない。この現場は私のこれ迄のキャリアの中でもヨイな。夕食を終え、再び現場へ。夜中にハイを乗り越えて、内部に入る。全て、予測通り。内部空間もよし。マ、しかし、一作、グランドノスな住宅は残せたかも知れない。

十月十一日

博多のホテルKKRで七時半起床。眠い。八時モーニング定番の朝食。残念ながら義務そのママに食す。こういう時にある種の虚無感を感じるな。朝食は本当は大事なのだ。八時二〇分現場。十八時過まで、打合わせに次ぐ打合わせ。大工棟梁をはじめとして各職方との打合わせに明け暮れる。私はこんな打合わせを、最良の時間の一つと実感しているのだが、今は私の方にその体力が少し計り不足して職方さん達には不満であったかもしれない。棟梁には申し訳ない事をしたかも知れぬ。今日は六、七種の職方さんと打合わせしたが、まだ足りない。十八時過、カンサイ社長O氏、現場に連れて来られて会食へ。職方さん達にすまない気持ちがあった。が、それはそれ、仕方が無いのだ。O社長は気を使ってくれて、春吉橋近くの「まめ丹」に会食の場を設定してくれた。「まめ丹」のおばちゃん久し振りに再会。二十二時頃まで食事。先程迄、もう本当に倒れるかと思っていた身体も、何故か倒れず、持つてしまう。何故、持ちこたえられているのかも知れず。O社長の元気さにも助けられたのだろうか。

二十二時過ホテル帰着。研究室からのFAX受領。

今日は、体力の限界近くの打合わせであった。O邸は良い建築になるであろう。